

れき 民  
となん歴民だより Vol. 2

Morioka tonan folklore museum

平成16年11月25日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel019-638-7228

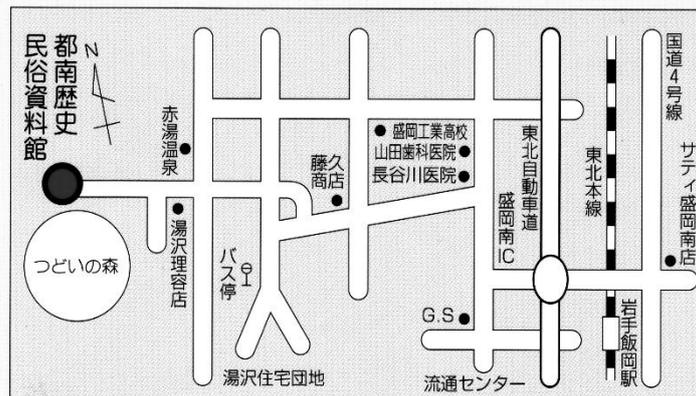


当館所蔵写真パネルより 「津志田の芋の子食い」

MAP ☆ACCESS

— もくじ —

- ・土器づくり報告
- ・特別展報告
- ・史跡巡り報告
- ・指定文化財紹介②
- ・資料は語る②
- ・となんの昔ばなし②



○利用案内

開館時間 午前9時から  
午後4時まで  
入館料 無料  
休館日 月曜日  
(休日に当たるときは、翌平日)  
年末年始

## 体験学習「土器づくり」(7月24日)

毎年民俗資料館では親子参加の土器づくりを行っています。今年が良い天候に恵まれた反面、粘土の乾燥が速く、形作りに苦労しながら、思い思いの土器を作り上げました。これらの土器は窯で焼いた後に、資料館で展示を行い、参加した皆さんにお渡ししました。

来年も土器づくりを行いますので、ぜひご参加ください。

<土器づくりの感想より>

- 小学2年 男 ひびが入ったけど、作れてよかったです。でも難しかった。
- 小学3年 男 最初は、変な形のお皿が出来たけど、もう一度やったら四角のお皿が出来ました。そして色々な模様を描きました。楽しかったです。もう少し大きなものを作りたいです。
- 小学4年 女 私は初めて土器作りをやって、難しかったところあったけど、すごく楽しいし、また来年も土器作りを体験したいです!!



## 特別展「学びのあゆみ」(9月1日~10月31日)



今年度の特別展は「学びのあゆみ」と題して開催され、江戸時代から現在までの教科書などの150点を越える資料をもとに、教育の歴史について展示をしました。実際に手に触れることができるコーナーでは、江戸時代からの教科書や机・椅子、様々な学習道具の展示を行いました。特に二人用の机で、ふたが上に開くところに関心が集まりました。さらにご自身が使った教科書などを手に取り、椅子にすわってみるなどして、懐かしい気分にはたっておられる見学者の方もいらっしゃいました。

## 史跡文化財巡り「歴史の街道散歩」(6月25日・9月17日)

～太田・繫・湯田を巡って旧秋田藩領～(6月25日)

今年度の春の史跡文化財巡りでは、仙北町の徳清倉庫から飯岡十文字の供養塔などを巡り、秋田街道・沢内街道を巡って旧小松川御番所へ向かうルートで行われました。絶好の日和に恵まれ、各史跡の前で皆さんが、ペンを片手に講師の吉田義昭先生の解説を聞き逃すまいとメモを取る姿が印象的でした。



飯岡十文字供養塔

～信仰の道・湯の道をたずねて～(9月17日)

秋の史跡文化財巡りでは、旧秋田街道を通り、板橋の追分碑・高前田一里塚などを巡って国見温泉に至るルートで行われました。午前中は雨降りで、車などの交通手段がなかった当時の苦労を、よりいっそう実感しました。

来年も史跡文化財巡りを行う予定ですのでご期待ください。



板橋の関所跡

## 平成17年度 特別展

### 土人形展

資料を探しています。



「子守」



「大黒天」(花巻人形)

当資料館では、来年度の特別展に向けた準備を行っています。テーマは花巻人形などの土人形です。花巻人形は、花巻市鍛冶屋町の太田善四郎が、京都の伏見人形、仙台の堤人形の製作技法を伝習して、享保年中から作り始めたのが起源と言われています。このように伏見人形の流れを汲んだ土人形は、東北地方には、花巻人形以外にも多くあります。それは各地方独特のものであったり、他地域の製品の複製であったりと様々です。来年度の特別展では、それらを併せて展示したいと考えています。また、こうした資料を所有しておられる方がいらっしゃいましたら参考としたいと思いますので、ぜひ当館までご連絡下さい。

### 盛岡市所在指定文化財紹介 ②

#### 国指定重要無形民俗文化財 永井の大念仏剣舞

昭和55年(1980)1月28日指定 盛岡市大字永井

庭元は、永井の高畔家(現小笠原健吉氏宅)で、寛政(1789~1801)の頃、祖先の金治が南日詰(紫波町)から養嗣子に来る時、この踊りをもって来て、代々伝承されたといわれています。



庭元に伝わる巻物「大念仏初り」によると、明治31年(1899)に永井村の太夫・小笠原三右工門に大念仏の大笠が伝承されたとあり、それまでは大笠のない念仏踊りが伝承されたものと思われます。また正徳3年(1714)記の回向歌集と明治5年(1873)の踊りの記録も保存されていることから、明治初年より更に古くから伝承されていたことが想像されます。

昔の暮らしを見つめてみよう

—学校や地域活動団体などへ—

## 農具・民具を貸出します!

当資料館の、数多くの民俗資料を学校や子ども会、地域活動などの場に広く役立てていただくために、所蔵資料の一部を貸出します。

長い歳月のあいだ使い込まれてきた資料一つ一つにはその家々の暮らしぶりや手づくりの道具に対する使い手の愛着が見え、手にとってはじめて知ることがとてもたくさんあるものです。児童・生徒のみなさんは、古さのなかに新しい発見が、当時子どもだった皆さんは、懐かしさと感動が得られることと思います。

資料の借受を希望する場合は、下記の内容を確認いただき、館までお申込みください。

- ① 対象  
盛岡市内の小学校・中学校、地区子ども会、町内会、老人クラブ、その他教育福祉施設等で郷土の資料を取り入れた学習や活動を実施しようとする団体等
- ② 貸出する資料  
例) 米づくりなどの農耕具  
炊事などの生活用具、  
糸車などの生産用具など  
衣類・履物類  
貸出し資料リストがありますので、本館にお問い合わせ下さい。
- ③ 貸出しの条件  
貸出しにかかるきまり(貸出し期限・運搬方法・取扱い方法など)の遵守
- ④ 申し込み方法  
資料館へ直接お問い合わせください。



資料が身近になると

いろいろなことがみえてくる



えぐりこみの急な搗き臼 (天昌寺町)



えぐりこみの緩やかな搗き臼 (湯沢)

白は穀類の脱穀・精米・製粉に用いる道具で、磨り臼(すりうす)と搗き臼(つきうす)とに分けられます。磨り臼は上下に重なった臼の間で精米や製粉を行います。搗き臼は、一般には縦長の臼で、原料を杵(きね)で搗き、穀物を搗く臼は搗きこぼれがないように内部が切り立って深くえぐられており(左の臼)、餅つき臼は搗くものを扱いやすいように、えぐりこみが緩やかになっています(右の臼)。搗き臼は、磨り臼や踏み臼(搗き臼の一種)の出現によって、のちには少量の精米や餅つきに用いられるだけになってしまいました。

白が行う“磨りつぶす”や“砕く”は、縄文時代以降に広く用いられた石皿や磨石(すりいし)に見ることができます。搗き臼は、稲作農耕とともに日本に渡ってきたと考えられ、古くから食料の加工に重要で身近なものであったことから、多くの信仰・習慣も伝えられています。一般に農家では臼を母屋の土間の大黒柱のそばに置き、大切に扱い、家を新築したときや火災のときは、まず臼から先に運び出されていました。正月行事にも、歳神を迎える祭壇として臼を利用し、これに鏡餅を供えたり、臼を伏せてその年の吉凶を占ったり、仕事はじめに臼をおこして餅をついたりする習慣は、今も各地で行われています。そして、臼を使い古したときは、これを割って隣近所にくばり、燃やして灰にしてもらうというならわしがありましたが、これも臼を神聖視していたためでしょう。

参考資料／ 宮元瑞夫 (二)白と杵「日本民俗文化財事典」p34-35 第一法規出版 1979：山口昌伴「図説台所道具の歴史」柴田書店

## となんの昔ばなし②

むかし  
おおぬま  
「大沼カッパ」

盛岡市三本柳に大沼があったときの話です。

昔、この大沼の主は女の川太郎(カッパ)で、その夫は稗貫(ひえぬき)の黒沼にすんでいました。

あるとき、近くの町人が大沼のそばを通りかかると、カッパがあらわれて、「どうか、この書状(手紙)を黒沼へ届けてください、決して開いて見るでないぞ。」と一通の書状をわたしました。町人はこの頼(たの)まれた書状を持って街道を歩いていましたが、郡山(こおりやま)の茶屋で休んでいるときに茶屋の亭主(ていしゅ)がどこへ行くのかと聞くので、あらいらい話すと、その書状を見せると言いました。町人は親しい亭主だったので、すぐふところから出して見せると、中には「この者の尻は黒いから、この男をつかまえて食うと、お前の尻の黒いのが必ずなおる。」と書かれてありました。おどろいた亭主と町人はヒソヒソと相談した結果、「この者に十両の金を渡してくれ。」と書きかえました。

町人はそれを持って黒沼に行き、手をタンタンとたたくと、沼の中から大きく立派な男が出てきました。町人はおそろおそろその書きかえた書状をさし出すと、受け取ってからジロジロ見ていましたが「ちよっと待っていろ。」と言って沼の中へ入り、すぐ十両を持ってきました。町人はほっとして受け取って、大急ぎで郡山の茶屋まで戻って来ました。そして茶屋の亭主と二人で山分けをしたそうです(終)

■出典『となんの民話』(都南歴史民俗資料館)